

社会安全政策研究所活動ニュース

本研究所が 2018 年 1 月から 2018 年 12 月までに行った主な研究活動は、以下のとおりです。

I. 共同研究 (I-A)・「子供を守るための地域連携研究」の実施

2018 年度より、警察政策学会の一部会としても承認された「子供を守るための地域連携研究」を共同研究 (I-A) として開始し、被害者化・加害者化から子供を守るための警察を起点とした地域連携に関する研究を実施しました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

活動報告：

http://www.waseda.jp/prj-wipss/kodomochiiki_2018.html

II. 共同研究 (I-B)・独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業の基盤研究 (C)「重大非行事案防止のための多機関連携による非行少年等とその家庭への支援に関する研究」の実施

2017 年度より開始した独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) 科学研究費助成事業の基盤研究 (C)「重大非行事案防止のための多機関連携による非行少年等とその家庭への支援に関する研究」を共同研究 (I-B) として 2018 年も継続して実施しました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

活動報告：

http://www.waseda.jp/prj-wipss/kakenC_kyoudouD_2017.html

III. 共同研究 (I-C)・独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業の基盤研究 (C)「国際テロリズムの未然防止に関する国際法枠組」の実施

2018 年度より、独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成事業の基盤研究 (C)「国際テロリズムの未然防止に関する国際法枠組」を共同研究 (I-C) として開始しました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

<http://www.waseda.jp/prj-wipss/index.html>

IV. 共同研究（I-D）・「大都市治安（安全安心）研究」の実施

2018 年度には引き続き、2016 年度に警察政策学会の一部会としても承認された「大都市治安（安全安心）研究」を実施し、新宿区を始めとした外国人集住都市の比較研究を通じ、より安全で安心なまちづくりを行うための政策等に関し検討を行いました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

<http://www.waseda.jp/prj-wipss/index.html>

V. 共同研究（II-A）・「司法から福祉へつなぐダイヴァージョン研究会」の実施

「司法から福祉へつなぐダイヴァージョン研究会」を 2018 年も継続して実施しました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

活動報告：

http://www.waseda.jp/prj-wipss/teichakuken_report_2015.html

VI. 共同研究（II-B） ・「犯罪者の就労支援研究」の実施

「犯罪者の就労支援研究」を 2018 年も継続して実施しました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

<http://www.waseda.jp/prj-wipss/index.html>

VII. 共同研究（II-C） ・ 「英米少年法研究」の実施

「英米少年法研究」は 2018 年度も継続して実施し、前年度に引き続き Susan Guarino-Ghezzi & Edward J. Loughran, “Balancing Juvenile Justice” の翻訳作業を行いました。

VIII. 共同研究（II-D）・「日豪犯罪処理システム比較研究会」の実施

2018 年度より、「日豪犯罪処理システム比較研究会」を共同研究（II-D）として開始しました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

活動報告：

<http://www.waseda.jp/prj-wipss/nichigohikaku.html>

IX. シャボットあかね氏講演会の開催

2018 年 4 月 28 日（土）に早稲田大学早稲田キャンパスにおいてシャボットあかね氏講演会が開催されました。

講演では、シャボットあかね氏（オランダ在住ジャーナリスト、通訳、コーディネーター）が「オランダ発：地域包括ケアの未来を拓く」をテーマに、第 1 部では、シャボット氏から、従来の WHO による健康の定義とは異なる、オランダ人医師マフトルド・ヒューバーが提唱した 21 世紀の健康のコンセプト「ポジティブヘルス」について、その重要性や課題に関し報告が行われました。また、経済的持続可能なケアの視点からシェアリングエコノミー（共有経済）やソーシャルエンタープライズ（社会的企業）に関するオランダと日本両国における展望についても述べられました。

第 2 部では、オランダにおける家庭医制度やトリアージの是非等についてシャボット氏が参加者からの質疑に応答するとともに、オランダと日本の文化や環境を比較したうえで日本での「ポジティブヘルス」の展開可能性について検討を行いました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

<http://www.waseda.jp/prj-wipss/report2018.html>

<講演をされるシャボットあかね氏>



X. 早稲田大学社会安全政策研究所（WIPSS）による臨時拡大研究会の開催

2019年3月3日（土）に早稲田大学早稲田キャンパスにおいて早稲田大学社会安全政策研究所（WIPSS）による臨時拡大研究会が開催されました。

2019年度をもって本学を定年退職される石川正興 WIPSS 所長（早稲田大学法学学術院教授）にこれまでの研究活動を振り返る研究報告を行っていただきました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

<http://www.waseda.jp/prj-wipss/report2018.html>

<報告をされる石川正興 WIPSS 所長>



X I. 第 23 回早稲田矯正保護展の開催

2018 年 11 月 30 日（金）に、社会安全政策研究所を主催団体の一つとして、第 24 回早稲田矯正保護展（テーマ：「家庭環境に課題を抱えた非行少年に対する立ち直り支援」）が開催されました。

詳細は下記 URL をご参照ください。

https://www.waseda.jp/prj-wipss/hogoten_report_2018.html

X II. 定例研究会の開催

本研究所では、第 11 期（2018 年 1 月から 2018 年 12 月まで）として計 5 回の定例研究会を開催しました（原則として報告者は 2 名で、奇数月の最終土曜日に開催）。

報告タイトルと報告者は、以下のとおりです（肩書は当時のものを掲載）。

1. 第 63 回定例研究会（2018 年 3 月 31 日開催）

(1) 「運転免許にかかるいくつかの考察」

江崎 澄孝 招聘研究員（関東学院大学高等教育開発センター非常勤講師，国士舘大学法学部非常勤講師）

(2) 「サイバーテロリズムの防止～国際電気通信連合（ITU）による『有害な干渉』の国際刑罰化～」

高屋 友里 招聘研究員（東京大学政策ビジョン研究センター客員研究員）

2. 第 64 回定例研究会（2018 年 5 月 26 日開催）

(1) 「法律過程と臨床過程との歴史的相克—日本の少年保護司法システムにおける検察官の役割とその中国法への示唆に関する考察」

李 程 氏（早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程修了生（博士号取得者））

(2) 「中国における日本法研究の現状と課題—日中刑事法研究会と中国人民

大学での体験から」

本郷 三好 招聘研究員（前中国人民大学法学院院長特聘助理）

3. 第 65 回定例研究会（2018 年 7 月 28 日開催）

- (1) 「更生緊急保護制度の意義—司法と福祉の連携に関する動向を踏まえて—」

石田 咲子 研究所員（法学学術院助手，大学院法学研究科博士後期課程）

4. 第 66 回定例研究会（2018 年 9 月 29 日開催）

- (1) 「罪を犯した発達障害者の処遇に関する刑事政策論的考察—システム論的観点から」

宋倉 悠太 招聘研究員（国土舘大学法学部専任講師）

5. 第 67 回定例研究会（2018 年 11 月 24 日開催）

- (1) 「安保理決議 1540 における貿易管理義務の国内実施—貿易犯罪処罰義務と経済活動の自由尊重義務の調整基準—」

大下 隼 氏（早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程）

- (2) 「更生保護，及びその後の支援における成年後見制度の活用」

川瀬 恵子 招聘研究員（税務大学校東京研修所非常勤講師）

X. 研究員の異動

本研究所では，以下の研究員の新規嘱任がありました（2019 年 1 月から 2019 年 12 月まで。50 音順）。

1. 新規嘱任

- (1) 研究所員

なし

- (2) 招聘研究員

志立 玲子 (NPO 法人アパリ事務局次長)

付 玉明 (西北政法大学法学学部教授)

森 惣兵衛 (会津若松調停協会会長, 福島県調停協会連合会副会長)

2. 身分変更

石川 正興 (所長兼研究所員から顧問へ)

棚村 政行 (研究所員から所長兼研究所員へ)

※なお, 本研究所の活動につきましては, 本研究所のホームページもご参照下さい (URL: <http://www.waseda.jp/prj-wipss/>)。